

産後の支援者養成・研修に関する調査研究

丹羽 勝子* 橋本 初江** 小山田 千代子***
滝野 タカ子**** 植村 規代***** 大西 芳子*****

要約：過去2年間の調査研究「産後の支援者のニーズ調査」「産後の支援者の活動に関する意識調査」により、“産後の母子支援に必要な援助を行う専門的サービス（①産後の心身への理解と対応ができ、②乳幼児の世話や育児の指導・相談相手として十分な内容があり、③家事能力にすぐれている。）の担い手として産後の支援者への期待と役割に答えるため、①沐浴を含めた赤ちゃんの生理と世話 ②産後の母親の心と体、また乳幼児の心と体の発達 ③母体の回復や離乳食を考えた栄養面での知識 ④産じょく期・乳幼児期の母子支援のためのカウンセリングマインドの学び等、系統的、継続的な教育・研修が求められてきている。”という事があきらかになった。今年、この結果を受けて、産後の支援者の資質と能力の向上、さらには、産後の母子支援サービスの向上のための産後の支援者養成・研修の在り方について検討することを目的に、①研修の意義 ②研修の目的 ③実施方針 ④実施方法 ⑤カリキュラムの体系について、専門家で構成する研究委員会を設置し、具体的な企画案を立案し調査研究を行った結果以下のことがわかった。

(1)時代的変遷を背景にした、母親にかかる育児負担、家事負担、夫・家族・地域からの孤立化、競争原理や情報先行の社会構造から来る不安…等、母子の抱えるストレスの時代的理解と支援の在り方の抜本的見直しによるカリキュラムの編成の必要性。

(2)専門的知識と経験を有する、助産婦その他の母子支援の実践・専門家との連携・協力による、段階的、系統的、継続的養成・研修制度の確立の必要性。

(3)時代と共に刻々と変化する母子のニーズに敏感な、3～5年毎のカリキュラムの再編が、サービスの充実と今後の母子支援事業の発展につながる。

(4)母子のかかえるストレスの理解と軽減による具体的な支援、といった考え方は、現在増加の一途

* 母と子の研究所

**助産婦

*** 赤ちゃんとママ社

****栄養士

***** 臨床心理士

*****カウンセラー

をたどる“現代的虐待”（古くからある貧困や無知等から子供を酷使したり暴力を振ったりする虐待とは別に、経済的にも知的水準も普通以上の家庭の母親によるもの）の予防の考え方と一致する。

見出し語：産後の支援者・専門的サービス・カリキュラムの再編・現代的虐待の予防

研究方法：助産婦その他の母子支援の実践・専門家によって構成する研究委員会を設置し、本調査研究の具体的な企画案を立案して調査研究を実施する。調査研究は、研究委員会が実施する必要な調査、意見聴取及び討論を通じて総合的にまとめる。

- 丹羽 勝子（母と子の研究所）
- 橋本 初江（助産婦）
- 小山田 千代子（赤ちゃんとママ社）
- 滝野 タカ子（栄養士）
- 植村 規代（臨床心理士）
- 大西 芳子（カウンセラー）
- 弁護士 他

結果：①研修の意義

母子支援サービスのニーズは年々高まってきており母子のニーズも時代と共に変化している。系統的、継続的、養成・研修制度の確立は、産後の支援者の専門性の維持と向上、サービスの充実につながり、ひいては我が国の未来の児童の健全な育成に資するものである。

②研修の目的

- ・産後の支援者の資質の向上とサービスの向上
- ・産後の母子支援サービスの発展

③実施方針

- ・養成研修（新規登録採用・業務再開時）
- ・現任訓練研修（現場経験時）

- ・総合研修（定期的開催）

④実施方法

国と民間のタイアップ、専門的知識を有する、助産婦その他の母子支援の実践・専門家との連携・協力による、系統的、継続的、養成・研修で、母子支援サービスのレベルアップをはかるものとする。

- ・中央にモデル支援事業を設置し、ニーズ調査機関を兼ねた産後の支援者養成・研修を企画する機関とする。
- ・産後の支援者養成・研修カリキュラムの運営再編の全国展開を管理する。

⑤カリキュラムの体系

母子支援の現場に精通した助産婦・栄養士・臨床心理士・カウンセラー・弁護士等、各専門家との連携・協力による、具体的、実践的内容の講義プラス実習のカリキュラム作成・運営とする。

- ・対象別カリキュラム

	養成 研修	現任研修			総合 研修
		入 門	基 礎	応 用	
児童家庭福祉と子供の人權	○				○

産後の母子のニーズと支援の意義	○				○
支援者の心得とマナー	○				○
支援者としての資質と適性の自己分析	○				○
家事支援	○				○
育児支援	○	○	○	○	○
栄養面のケア		○	○	○	○
カウンセリングマインドと母子支援		○	○	○	○
労務・法務	○				○
ウェルネス対策		○	○	○	

・カリキュラム内容

児童家庭福祉と子供の人権

子育てにかかわる家庭と社会のパートナーとしての児童福祉・児童家庭福祉を学び、児童憲章・子供の権利条約・乳幼児虐待等、子供の人権と、我が国における育児支援政策の現状について学ぶ。

産後の母子のニーズと支援の意義

小子化の動向・女性の職場進出・家庭や母親の子育て責任と負担の軽減等、児童家庭福祉の現状と今後について学び、我が国の育児支援事業へのニーズと育児支援制度・サービスについて理解を深める。

支援者の心得とマナー

時代的変遷を背景にした、母親にかかる育児負担・家事負担、また、母子の競争・情報化社会におけるストレス、夫・家族・近隣からの孤立化からくる、母子を取り巻く様々なストレスの時代的理解と母親理解を深める。

支援者としての資質と適性の自己分析

支援者同士の交流・面接・心理テスト等を活用し、母子支援者としての資質と適性について、客観的に自己を見つめる機会とする。

家事支援

買い物・洗濯・食事作り等のポイントと支援の実際について、シュミレーション・ロールプレイ・討論・講義等を通して学ぶ。

育児支援

指導者としてではなく、ケアを受ける人にとってほっとできる相手として、母親がその人なりのやりかたで少しずつ自信を持って育児をスタート出来るようにサポートしていく立場にある事を学ぶ。外見からではなく、その人が母親になった責任の重さを実感し、その人なりに十分に頑張っている事実に焦点を当てそれ以上励まさない事の大切さや、出産した施設で「順調」と診断を受け退院したケースはまず心配ないという安心、また、母親が、その様な支援を通して緊張がほぐれ赤ちゃんが可愛いと感じ受け入れていく過程の大切さを学び、母親の信頼を得、サポートがうまく運ぶための学びとする。

- ・赤ちゃんの生理と世話（沐浴・おへその手当・ミルクの作り方・おむつの当て方・健康チェック・新生児の事故）

- ・助産婦との連携・協力による母乳で育てたい母親へのケア（うまくお乳に吸いつけない赤ちゃんと母親へのケア・お乳が痛み乳腺炎かと悩む母親へのケア）
- ・子供の発達と遊び（発達課題の考え方を取り入れた新生児・乳児・幼児期の心と体の発達を促す、身近で具体的な遊びの理論と実際）

栄養面のケア-

毎日とっている食事だが、各家庭で利用する食料・調理方法・量・味付け等、全て異なり、支援者には、各家庭の傾向をいち早く見抜き把握したうえで、母体の回復に良いと思われる食事作りと、母親が何を一番望み助けを求めているのかを察する事の出来る豊かな感受性が要求されている事を学習する。食に関する現代の母子のニーズは多岐に渡るため、母親の不安を軽減し、同時に支援者の仕事をやりやすくするための学びとする。

- ・基礎的な栄養のとり方と手際のよい献立
- ・産前・産後の貧血の時の献立
- ・母乳促進の献立
- ・便秘や痔の時の献立
- ・産後肥満気味で体重の落ちない時の献立
- ・授乳時の寝不足や子育ての不安から食欲の無い時の献立
- ・離乳食の進め方と調理方法
- ・アレルギーの子供の離乳食
- ・食の細い子・食べてくれない子の離乳食

カウンセリングマインドと母子支援

母子の生活場面で全人格的にかかわる支援者の適切な言動は、母親の不安を軽減し、問題

解決を援助し子育てに取り組む原動力となる。支援者の直接的、母親を通しての間接的な安心感が子供に伝わる事で、より豊かで快適な環境を提供出来るよう、カウンセリングマインドの学びが重要となってくる。

- ・産じょく期の心のケア-（出産後の母親特有の不安や抑うつ症について、正しい知識を習得し、基本的な対応の仕方について学習する事により、実際の場面で母親の気持ちを理解し、適切なケアが行なわれる事を目指す。家庭内でケア出来る比較的軽いマタニティブルーと、明らかに医療的ケアを必要とする病的な状態を見分け、関係機関へつなげていく判断力と具体的方法も学ぶ。）

- ・新生児期の心のケア-（新生児の肉体・精神・社会性の発達や、赤ちゃんが豊かに育つための環境作り・安心感を与えられるような関わりを、知識と具体的な対応から学ぶ。支援者が、母親を指導したり評価したりするのではなく、支援者自身が自信を得、良い手本となれる事を目標にし、指導や助言が母親のニーズに先んじぬ事の大切さも学ぶ。）

- ・乳幼児期の心のケア-（乳幼児期の肉体・精神・社会性の発達や、子供の成長に従って刻々と変化する母親のストレスを軽減するための支援の在り方について学ぶ。この時期の子供の自己主張による、付き合い方の難しさから来る母子のストレスへの対処方法、具体的な躰の時期と方法のサポート、安全の確保、赤ちゃんと上

の子との関わりから来る母子のストレスへの対処方法等、母親が育児を楽しめる様な環境作りを目指す支援の在り方について学ぶ。)

- ・カウンセリングマインドとリーダー性（支援者自身が、多くの情報による混乱や知識不足から生じる不安等を解消し、安心した気持ちでケアに専念出来るよう、実際の経験を持ち帰り検討する学習の場の提供と同時に、カウンセリングの根本にある人間理解や方法論を学び、安易なノウハウ式の学習への偏向を避けた理論を生かせる技術や、実習・訓練の場を提供する事により、支援の現場に携わるリーダーとしての心構えを身に付ける。)

法務・労務

ヒューマンサービスの在り方、関係機関との連携や協力の在り方について理解を深める。

- ・職業倫理
- ・信頼と人間関係
- ・対顧客・対雇用者との契約に関する留意点
- ・助産婦、その他の医療関係者とのネットワーク（病気の予防と対処について）
- ・臨床心理士・医療関係者とのネットワーク（精神障害の予防と対処について）
- ・自治体児童福祉相談所とのネットワーク（虐待・放置の予防と対処について）
- ・事故の予防
- ・事故発生後の対処方法

ウェルネス対策

- ・カウンセリング（業務の中で支援者自身

が抱える悩みやストレスに対してのケアも、重大な課題のひとつである。支援者のニーズに応じて、問題解決のためのコンサルテーションや心のサポートを行なうカウンセリングルームの設置は急務である。)

- ・リフレッシュ・リラクゼーション（支援者が安心して働けるための受け皿として、支援者同士の学習や交流の場の設定、リフレッシュのための楽しい催し等も検討したい。)
- ・人間関係講座（母子を取り巻く夫・両親・同胞等とのなめらかなコミュニケーションを援助するための、人間関係の学習も研修内容に加えたい。多くの研修により、支援者が資質や能力の向上を通して、自分の人生を豊かに味わえる事を強く強調したい。)

考察：(1)時代的変遷を背景にした、母親にかかる育児負担、家事負担、また、母子の競争・情報化社会におけるストレス・夫・家族・近隣からの孤立化からくる、母子を取り巻く様々なストレスの時代的理解が最も重要となってくる。(2)家事支援、育児支援、母子理解、栄養面のケア等、母子支援に必要な専門的知識と技術を身に付けると同時に、支援者としての資質の自己点検と開花、また、母子支援のリーダーとして各自がなめらかな人間関係を築く手段としてのカウンセリングマインド等の学びが重要であり、これらの、無理のない段階的、系統的、継続的養成・研修制度の確立が必要である。

(3)育児負担、家事負担、孤立化等、ニーズを踏まえた母子のストレスを軽減する支援の目指すところは、現在増加の一途をたどる“現代的虐待”の予防の考え方と重なり、母子の抱える社会課題への一助となり得る。

(4)時代と共に母子のニーズも大きく変化し、母子支援事業の課題は山積みされている。専門的

知識と経験を有する、助産婦、その他の母子支援の実践・専門家との連携・協力を得、常にリサーチをおこたらず、刻々と変わりゆく母子のこれからのニーズにあわせた、3～5年毎のカリキュラムの再編によるサービスの充実が、今後の我が国の母子支援事業の発展につながると思います。

Abstract

Research on Educational System of Home Visitation Program For New Mothers.

Katsuko Niwa¹⁾ Hatsue Hashimoto²⁾
Chiyoko Oyamada³⁾ Takako Takino⁴⁾
Noriyo Uemura⁵⁾ Yoshiko Ohnishi⁶⁾

Summary: To improve the home visitation program for new mothers, we concluded

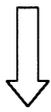
- 1) Systematic training to develop the home visitor's skills is needed.
- 2) ①The needs among new mothers and their new borns ②Aptitude issues ③Law and justice, ④and Leadership based on Counseling Mind are needed to include into the curriculum.
- 3) Midwives and other professionals must cooperate to renew the curriculum, depending on the needs.

We could confirm that it has been important to develop the home visitor's skills by systematic training, but also to cooperate the home visitors with the professionals as midwives and others.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:過去2年間の調査研究「産後の支援者のニーズ調査」「産後の支援者の活動に関する意識調査」により、“産後の母子支援に必要な援助を行う専門的サービス((1)産後の心身への理解と対応かでき、(2)乳幼児の世話や育児の指導・相談相手として十分な内容があり、(3)家事能力にすぐれている。)の担い手として産後の支援者への期待と役割に答えるため、(1)沐浴を含めた赤ちゃんの生理と世話 (2)産後の母親の心と体、また乳幼児の心と体の発達 (3)母体の回復や離乳食を考えた栄養面での知識 (4)産じょく期・乳幼児期の母子支援のためのカウンセリングマインドの学び等、系統的、継続的な教育・研修が求められてきている。”という事があきらかになった。今年、この結果を受けて、産後の支援者の資質と能力の向上、さらには、産後の母子支援サービスの向上のための産後の支援者養成・研修の在り方について検討することを目的に、(1)研修の意義 (2)研修の目的 (3)実施方針 (4)実施方法 (5)カリキュラムの体系について、専門家で構成する研究委員会を設置し、具体的な企画案を立案し調査研究を行った結果以下のことがわかった。

(1)時代的変遷を背景にした、母親にかかる育児負担、家事負担、夫・家族・地域からの孤立化、競争原理や情報先行の社会構造から来る不安・・・等、母子の抱えるストレスの時代的理解と支援の在り方の抜本的見直しによるカリキュラムの編成の必要性。

(2)専門的知識と経験を有する、助産婦その他の母子支援の実践・専門家との連携・協力による、段階的、系統的、継続的養成・研修制度の確立の必要性。

(3)時代と共に刻々と変化する母子のニーズに敏感な、3～5年毎のカリキュラムの再編が、サービスの充実と今後の母子支援事業の発展につながる。

(4)母子のかかえるストレスの理解と軽減による具体的な支援、といった考え方は、現在増加の一途をたどる“現代的虐待”(古くからある貧困や無知等から子供を酷使したり暴力を振ったりする虐待とは別に、経済的にも知的水準も普通以上の家庭の母親によるもの)の予防の考え方と一致する。